

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-3 青少年の健全な育成の推進
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	警察本部少女女性対策課 松本好尚	電話番号	0852-26-0110
----------	------------------	------	--------------

事務事業の名称	青少年の健全育成及び非行防止対策事業		
目的	(1) 対象	青少年	
	(2) 意図	青少年が、社会の一員として必要な社会規範や自立性、豊かな人間性・社会性を身に付け、心身ともに健やかに成長するような環境整備を進めます。	
事業概要	○地域ぐるみで青少年健全育成に取り組んでいく社会的な気運をさらに醸成していくとともに、青少年の自主性や主体性が育まれるような環境作りをしていくため、普及啓発活動の充実と、活動の推進組織の運営強化を図ります。 ○関係機関や団体等と連携して、様々な問題を抱える家庭や社会生活を円滑に営み自立していく上での困難を有する子ども・若者に対する相談や自立支援を行います。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	刑犯少年の再非行率	目標値	31.5	29.1	27.7	26.5	%
	式・定義	全刑犯少年に占める再犯者の割合	実績値	32.9				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	16,445	17,262
うち一般財源(千円)	14,274	15,087

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

○平成27年の非行少年は239人(前年比85人減)で、統計を取り始めた昭和24年以降最少となった。少年人口1,000人当たりにおける非行少年は2.8人(前年比0.9ポイント減)だった。刑犯少年140人(前年比74人減)のうち再犯少年は46人(前年比25人減)だった。再非行率は32.9%となり、依然として30%で前後で推移しているが、全国平均の36.4%より下回った。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

○県内の少年非行は、平成16年以降の減少傾向を維持しており、本年度も5月末時点で非行少年59人(前年比17人減)、不良行為少年259人(前年比139人減)である。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
○刑犯少年の再非行率が依然として30%前後で推移している。
- ②困っている状況が発生している「原因」
○再非行が発生するのは、初期の非行時に少年が真に反省していないことや、規範意識が低いこと、境遇や家庭環境に非行を誘発する要因が認められる。
- ③原因を解消するための「課題」
○非行少年に対しては事件処理後においても、警察官や少年補導職員等による面接の機会を確実に設けるなどして反省を促すとともに、行政、地域を巻き込んだ地域社会の協力も得て立ち直り支援を行う必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

○継続して非行防止教室等の実施による少年の規範意識の向上に取り組むとともに、非行が進んでいる少年や、非行を繰り返す少年に対しては、臨床心理士等の専門的知識を有する者からのアドバイスを受ける等少年の個別の心理状態や環境に一層配慮した補導を行うなど質の高い対応を図る。また、継続支援が必要な少年については、松江市、出雲市、浜田市、益田市に業務委託している子ども支援センターによる継続的な立ち直り支援の取り組みを実施していく。

9. 追加評価(任意記載)

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。